

既得権を打破、真にエコな革新企業 株式会社ソーエン

汚染水を浄化し、環境破壊を防ぐ、経済的な水処理技術を提供する会社の一つに株式会社ソーエンがあります。同社の特徴は、環境ビジネスを経済活動に限らず、社会貢献活動としても運営している点です。

パッシブ技術で地球にやさしい

株式会社ソーエンは非営利のNPO・NGO団体を組織して、広く市民や学生、他の環境団体等と連携、活動を行っています。組織するNPOは「ジャパン・ウォーター・ガード」(中国では「日本水生協協会」)、「炭素繊維水利用工法研究会」(アスベスト処理推進協議会)です。同社の技術は、自然と共生するための基本技術で、環境に大きな負荷を与えず、自然界が持つ浄化機能を補強・補完するパッシブ技術であり、持続可能な開発が可能になっています。まず、炭素繊維水質浄化材「ミラカーボン®」を用いた水質浄化技術、そして

「MSC工法による濁水、底泥処理技術」です。両技を用いることで、高価な機器や大きなエネルギーを要せず水質浄化、排水処理機能向上が達成できます。

優れた技術は、世界から求められる

炭素繊維水質浄化技術は、もともと群馬県の繊維産業を中心とした国費による産学官連携コンソーシアム事業(一九九七〇〇)で開発された技術です。当時は事業化が図れなかったため、研究者からの依頼で、非営利環境活動としてジャパン・ウォーター・ガードが設置工事や技術開発を行いました。それらの活動が、当時の環境ブームでテレビ番組等に取り上げられるように

なつたのです。事業規模が大きくなつたため会社組織であるソーエンが前面に出て事業化を図りました。海外からの問合せも増え、中国・江蘇省蘇州市運河への設置を手始めに開始された海外事業は、中国、韓国、台湾、ASEAN諸国から、南アフリカ、ロシアへと広がりを見せました。しかし「設置するだけで高い効果が得られるパッシブな技術」は、環境プラントメーカーが行う高価な機器やエネルギーを必要としないため、水処理業界の既得権者には都合が悪く、経済的であるが故に利益率は低く、高度処理ではないため認められにくいという側面もありません。「世界が求める革新的技術であっても、小企業の行うイノベーションは、既得権に阻まれ非常に難しく、苦労が絶えない」と、同社社長・小暮幸雄氏は明かします。「志を高く保てるか否かが、環境事業の成否を分ける」という同氏の言葉は示唆に富んでいます。

株式会社ソーエン

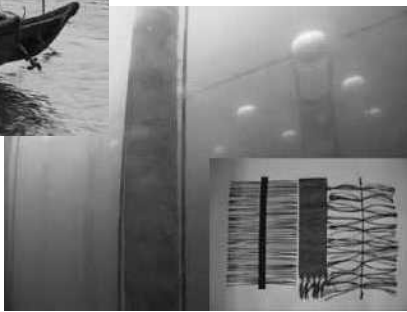
- 本社：群馬県高崎市新保町1665-1
- 代表者：小暮幸雄
- 設立：1993年
- 資本金：1000万円
- 従業員数：15名
- 主な事業：環境改善事業

水処理技術で社会に貢献



▲中国湖北省武漢市東湖での設置作業。中国では「日本水生協協会」として活動。

▼炭素繊維水質浄化材ミラカーボン(腐食しない)。



写真提供：株式会社ソーエン